

令和2年度 環境で地方を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業 キックオフミーティング 発表資料

活動団体名：鹿島市ラムサール条約推進協議会
活動地域：佐賀県鹿島市

活動におけるテーマ・キャッチコピー
「環境と産業の調和」から
「有明海再生」に向けて

鹿島市ラムサール条約推進協議会 マンダラ vol.5



昨年度の取組の概要（仮説と実践、気づき）

当初予定していた取組

- ラムサールブランド認証品の品数増加と出口戦略による基金の増
- 市内イベントの活用・エコツアー開催による経済効果・観光客誘致
- 下水道事業とのコラボによる、環境と産業の調和。農協・漁協の取り込み・企業誘致
- 環境保全活動の推進・企業への参加の呼びかけ

実践の中での気づき

- 意見交換会・分科会を経て、やり方を変更し、意見が合わなくてもいいというスタンスで仲間になってもらった結果、同じ目標に向かって、それぞれの立場に立って出発し、最終目標の「有明海保全」に向かうことになった。これができたのが一番の収穫だった。
- 成功事例が増えると、予想外の協力者が増えてきた。（飲食店・農家など）

実際に行った取組

- エコツアーモニターツアー
- ラムサールブランド認証品のコラボ商品試作
- ディスポーザ事業を軸とした、国交省・漁協・農協との連携
- クリーンアップ作戦や海の森事業を通じた保全活動、企業への啓発
(企業数 1.5倍、参加者1.9倍 (H28年度比))
- LINEスタンプ販売開始

事業のタネ3つ

- **肥前鹿島干潟基金増額プロジェクト**
⇒有明海の環境保全の資金を獲得するため、既存のラムサールブランド認証品の販路拡大。
- **汚泥有効利用施設活用 国交省との地域活力向上計画とのコラボ**
⇒事業所にディスポーザを導入し、汚泥有効利用施設を活用することにより、今まで焼却していた生ごみの残渣・規格外農作物を堆肥として再利用し、CO2削減につなげる。その後、堆肥を用いて栽培した作物をブランド化。
- **エコツアー開催**
⇒エコツーリズム開催や、干潟交流館の活用による干潟の利用拡大（観光・産業）

昨年度の取組を踏まえた課題とその対応

環境整備についての課題

- マンダラの策定について

⇒今後マンダラのあり方について協議が必要。関係者は理解しているが、外部の人にマンダラだけで理解してもらうことが難しい。理解しやすさと見える化を中心にブラッシュアップを行う。

- ステークホルダーの巻き込みについて

⇒事業への誤解・風評被害などがあるので、こちらの意図などをきちんと伝えた上で、メンバーを募る必要あり。

課題を打破するための今年度の取組

- ラムサールに対してあまりよくない感情を持つ農業者、漁業者が環境起因で困っていることを整理し、そこに協議会の取り組みがどうコミットするか、何が有効かを分析し、マンダラを作成する。それを元に、ステークホルダーを招集、草の根的に事業の巻き込みを図る。

(対話のカギは下水道のディスポーザ事業)

- ステークホルダーメンバーのそれぞれの得意分野で事業を開始。

環境ローカルビジネスの事業化に向けた課題

- 地元での賛同者をいかに増やすか



カモによる
海苔の食害



カモによる
小麦の食害

ディスポーザ説明写真（１）



【写真1】外観

ディスポーザ装置の外観です。
大きさは、一般家庭の台所（シンク）とほぼ同じです。



【写真2】ディスポーザ本体

赤丸で囲っているのがディスポーザ本体です。
直径30cm×高さ80cm程度です。
業務用なので、ディスポーザの中ではこれでも大型になるそうです。



【写真3】水を流す様子

生ゴミを砕いて下水管に水と一緒に流す必要がありますので、このように水を流す機能があります。
生ゴミ（今回はタマネギ）は、青丸で囲っている排水溝にどんどん入れていきます。

ディスポーザ説明写真（２）



【写真4】排水溝内部

排水溝の内部（ディスポーザ本体上部）には、このような装置がついています。
この装置は高速で回転しますので、生ゴミ（タマネギ）は遠心力で外側に押し付けられ、外側の金具で粉々に砕かれて下水管に流されていきます。



【写真5】タマネギ投入

このように人力で生ゴミ（タマネギ）を排水溝の中に入れていきます。
実験の結果、商業タマネギ（通称：クサレ）は、1分間に20kg程度処理できそうです。



【写真6】ディスポーザ後のタマネギ

ディスポーザで処理した結果、タマネギは写真のように粉々になっています。タマネギの臭いはしますが、心配していた強烈な刺激臭は発生していません。
これが、浄化センターにたどり着いたら、固形物は『しぼ（ゴミ）』として取り除き、水分（汚水）は浄化して青明海に放流されます。

今年度の新たなチャレンジと到達目標

新たにチャレンジにしたいこととその具体的な取組

- 肥前鹿島干潟基金増額プロジェクト

- ①ラムサールブランド認証品の組み合わせ販売検討

- ②ラムサールブランド認証品の飲食店での提供事業

(インプリンティング牛・ブラッドオレンジ・米・まえうみもん)

⇒基金は有明海保全のために使用する。(干潟改良剤購入費など)

- ディスポーザ事業を軸にして、干潟保全への農業者の巻き込み

⇒ディスポーザ実証実験(タマネギ、ミカン)。農協・漁業との協力体制強化。

- エコツアー開催(干潟交流館活用)

⇒観光客向け観測地整備。秋には団体客誘致。



今年度の到達目標

- 肥前鹿島干潟基金増額プロジェクト⇒目標額80万円

- ディスポーザ事業⇒農協・漁業との対話からの事業拡大

- エコツアー開催⇒2団体誘致



© 環境省 国土利用政策局 / 環境省 国土利用政策局 環境川南プロジェクト

年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			◆協定締結（活動予算執行開始） ◆キックオフミーティング 現地意見交換会				◆北九州テクノ2020		◆中間報告書提出期限 活動団体成果報告書提出	現地意見交換会		◆成果報告会
話を聞きに行く！			◆有明海に関する各地区の問題点を聞く ◆漁協・農協との協議開始 ◆商工会議所・事業者との面談 ◆祐徳門前商店街への説明会									
地域のコンセプトを描く！			推進協議会			ワークショップ 関係省庁との協議			意見集約			◆5周年記念シンポジウム
事業のストーリーを語る！		◆七浦地区へ有明海保全再生のための実証地の説明 ◆有明海保全策について、漁協への申し入れ ◆農協へ堆肥の使用についての説明 ◆商工業者への事業説明				◆各地区区長会での事業説明		◆スポGOMI				
地域の目標を立てる！		◆第7次鹿島市総合計画策定業務開始 ◆肥前鹿島干潟保全利活用計画検討業務開始						◆ワークショップの意見を受けて目標を立てる				

新規に取り組む団体へメッセージ

- ステークホルダーの巻き込みについて

環境と産業それぞれの立場からメンバーに入ってもらっていますが、メンバーの考え方に温度差や、価値観の相違があり、意見が相容れないことが多く、事業を進めることが難しいこともありました。そんな中で分科会の講師の先生から、山の頂上が目標としたら、登り方は何通りあってもよいとアドバイスを頂いたことで、それぞれの立場に立って出発し、最終目標の「有明海保全」に向かうことにしました。これがわかったのは昨年度の一歩の収穫でした。

- 協議会の考え方 3つ

- ①意見が合わなくてもいいというスタンスで仲間になってもらう。
- ②会議で結論を出そうとしない。意見をまとめるのを目的としない。
- ③環境と産業の調和は最終目的であるが、お互いの意見を尊重し、意見が合わないのはあきらめる。
分かり合うことに時間を割かない。

こんなことを助けて欲しい！

- 地域循環共生圏に取り組む地域同士、何か一緒に取り組める事業があればいいと思います。



エコツアー

ラムサールブランド 認証品提供委託先募集



問合せ 鹿島市ラムサール条約推進協議会
【事務局】鹿島市役所ラムサール条約推進室
☎ 0954-63-3416



クリーンアップ作戦



ラムサールブランド認証品を用いた 料理の一例



有明海のいきものス
タンプ
sayaka

¥120 1%還元



プレゼントする

購入する

スタンプをタップするとプレビューが表示されます。

